

某月某日

中西準子『環境リスク学—不安の海の羅針盤』（日本評論社）を読む。まったく知らなかった領域だが、こんな凄惨なことが起きていたのかと興奮した。

冒頭に置かれた横浜国大での最終講義がすばらしい。そこで中西氏は、東京の汚水処理の問題から出発して「ファクトに基づいたリスク理論」を確立するまでの、四十年にもわたる自分の仕事の軌跡を淡々と振り返っている。ダイオキシン、環境ホルモン、BS Eなどの問題においても行政側と住民運動側とに挟撃されたながら、一歩も怯まずに

松浦寿輝の 読書日録[Ⓢ]



闘いつづけた科学者の勇氣、 込まれて育った中西氏は、思
その人生の時間の重み。徹底 想には人々の対立を解く力は
してファクトの地平に立つリ ないということを書いた。髓まで
スク学の記述はそれ自体スリ 思い知らされた。
リングだが、最後に至って中 「私は自分の出す資料から
西氏は自分に課した縛りをほ あらゆる思想的な言葉を削ぎ
んの少し弛め、彼女の闘いを 取りました。……出すべきは
支えた内的モチーフをほんの 事実、思想の違いを超えて認
少しだけ明かしている。戦時 めることができる事実……こ
中満鉄調査部に勤め、死刑の れが自然科学の強みだ。自分
求刑を受け、釈放後に共産党 は今それをもっている。私は
から立候補して参議院議員と そう考えました」。

なり、しかし党内のイデオロ ちよっと疲れたので「事実」
ギー対立で除名された彼女の とまったく無関係なフィクシ
父の激動の生涯。それに巻き ヨンで休憩するところとして、
山本直樹『堀田HOTTA2』
(太田出版)と原作・大場つ
ぐみ／漫画・小畑健『DE-
ATH NOTE8』(集英社)
に手を伸ばす。山本直樹の新
作は必ず読む。文学は終った
などと安易なことを口走る馬
鹿がときどきいて腹が立つ
が、山本の『リーバーズ』
や『安住の地』のような傑作
が読めるなら文学なんて終っ
ちまってもかまわねえやと
思わないでもない。『DE-
ATH NOTE』の論理パズ
ルのような面白さは認める
が、さすがに少々なびなびと
やしきってきたのではない
か。(まじろひ・ひろき氏)
作家・詩人・仏文学者)

科学者の勇氣